

魅力と活力ある
県立高等学校づくりに向けて

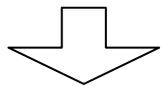
平成22年8月
滋賀県教育委員会事務局

滋賀県内には、こういった高校がどれだけあるの？



【県立高等学校】

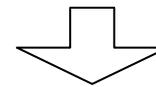
- ・全日制 46校
- ・定時制 単独 2校
全日制との併置 3校
- ・通信制 定時制との併置 1校



普通科、農業学科、工業学科、
商業学科、家庭学科、理数学科、
体育学科、音楽学科、美術学科、
福祉学科、国際学科、総合学科

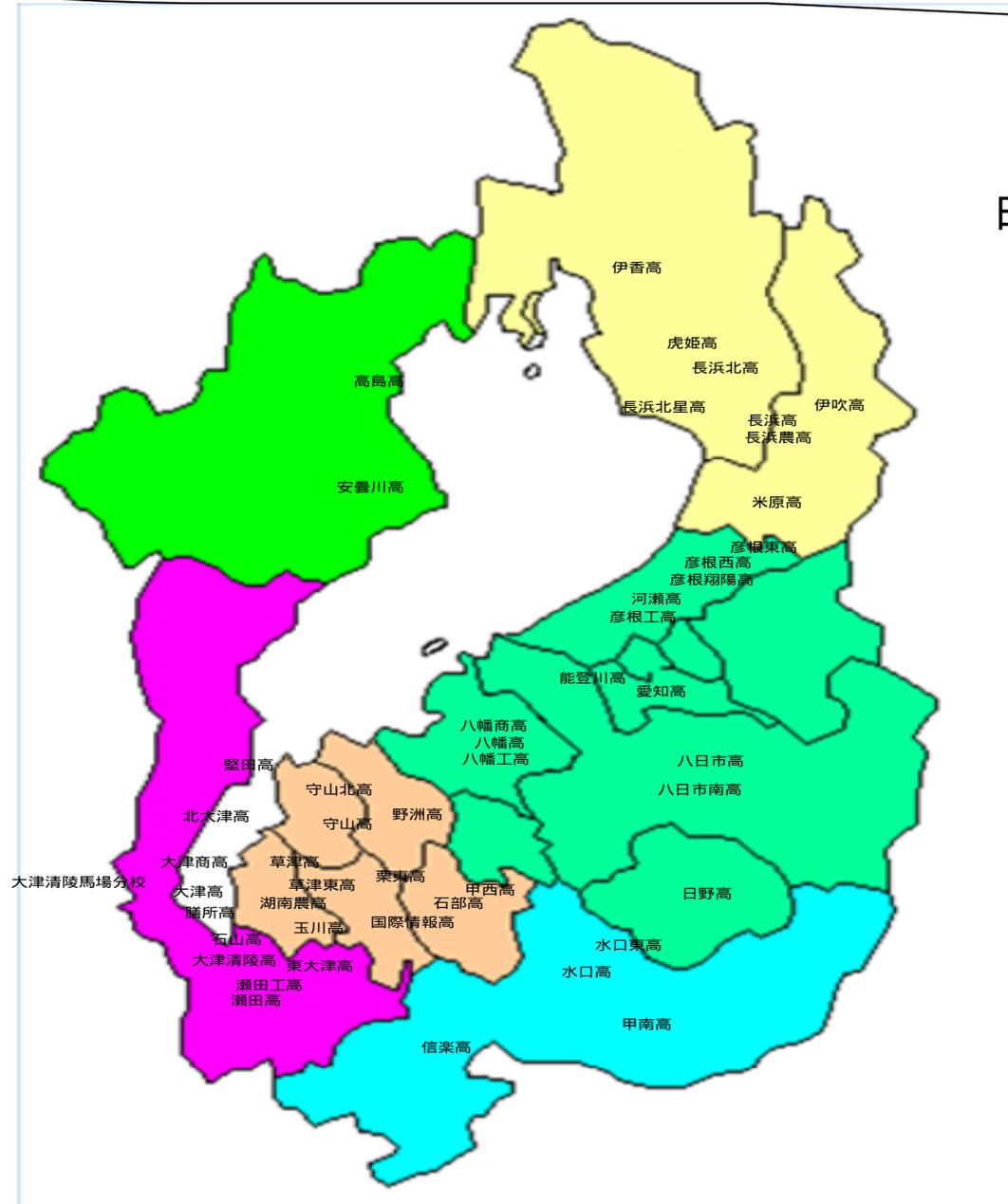
【私立高等学校】

- ・全日制 9校
- ・定時制 全日制との併置 1校
- ・通信制 単独校 2校
定時制との併置 1校

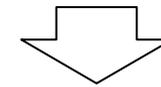


普通科、商業学科、総合学科、
生活創造科、食物調理科、
介護福祉科

県立高等学校はどのように配置されているの？



昭和60年度～平成17年度
6通学区域制
< 大津・湖南・甲賀・
湖東・湖北・湖西 >



平成18年度以降
全県一区制度の導入

滋賀県では、これまでどのような高校改革を行ってきたの？



学科改編

商業科
国際経済科
情報処理科 } 総合ビジネス科
情報システム科

工業化学科 環境化学科 など

特色ある学科

音楽学科、体育学科、美術学科、
福祉学科、理数学科、国際学科
などを設置

平成9年度～ 総合学科の設置

総合学科って何？

普通教育と専門教育
を総合的に行う学科。
希望進路に沿った科
目選択が可能。

中高一貫教育校の設置

中学校における教育および高等学
校における教育を一貫して行う教育
校を3校設置

【河瀬中高、守山中高、水口東中高】

全県一区制度

自分にあった高校、学びたい高校を、
県下全域から、生徒自らが主体的
に選択できるよう、通学区域をなくし、
全県一区とした(平成18年度～)

全県一区制度導
入後も、以前の通
学区に約8割の生
徒が通っている

この他にも

入学者選抜方法の改善、高大連携、高等養護学校併設 など

いま、滋賀県の県立高等学校はどんな課題に直面しているの？



生徒数の減少(小さな規模の学校増)

・多様で個性的な生徒との出会いが少なく、切磋琢磨する機会が減っている

・選択できる科目数が限られ、生徒の興味・関心にあった学習ができない

・多様な教師との出会いが少ない
・教科指導や校務が多岐にわたり、生徒との関わりが希薄になる

・部活動のメニューが少ない
・部員集めに苦労し、公式試合の出場に支障を来している

・文化祭や体育祭などの学校行事や学校活動で活気が見られない

大きな規模の学校

・施設・設備等の使用において制約が生じることがある

社会の急激な変化
生徒の多様化

・生徒の学習したい内容や希望する進路と教育内容との間に差がある

・目的意識が不明確で学習意欲に欠けたり、学校生活になじめないなどの生徒が見受けられる

厳しい財政状況

・老朽化する学校施設や設備

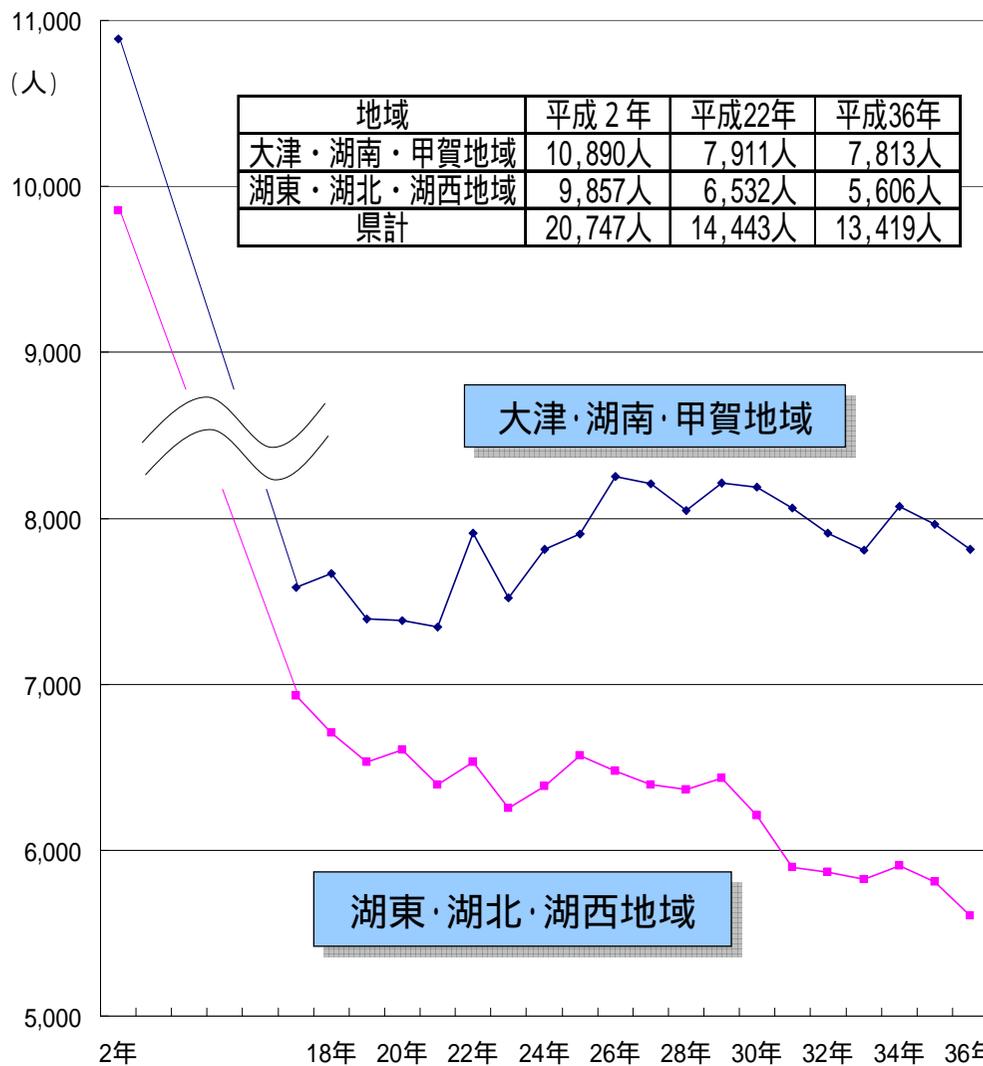
・図書や教材、機器、備品などの更新・修繕に十分対応できていない教育環境

生徒数の減少

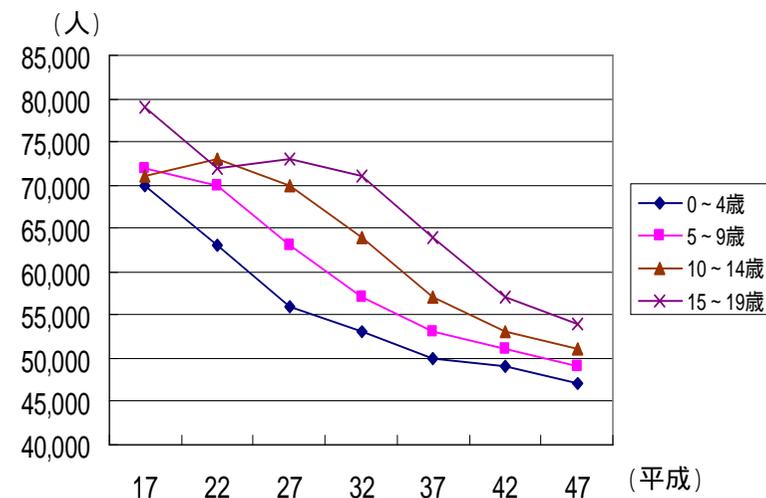
どうしてこうした課題に直面しているの？



【中学校卒業(予定)者数の推移】



【滋賀県における年齢(5歳階級)別将来推計人口】



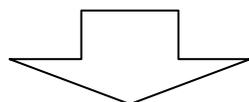
国立社会保障・人口問題研究所(平成19年5月)「日本の将来推計人口(都道府県別、男女・年齢(5階級)別将来推計人口)」より作図

平成22年～平成30年は、平成21年5月1日の学校基本調査による現員
平成31年以降は、平成21年4月1日付けの県人口推計(統計課)による推計

【県立高校の1学年あたり学級規模】

【平成2年度】

学級数	校数	大津地域	湖南地域	甲賀地域	湖東地域	湖北地域	湖西地域
		11学級	4	2			1
10学級	7	2	1	2	2		
9学級	8	3	3		1	1	
8学級	9	1	3	1	2	2	
7学級	7		1		4	1	1
6学級	6			1	2	3	
5学級	2		1			1	
4学級	1				1		
3学級	1			1			
合計	45	8	9	5	13	8	2



【平成22年度】

学級数	校数	大津地域	湖南地域	甲賀地域	湖東地域	湖北地域	湖西地域
		11学級	1	1			
10学級	1	1					
9学級	2	1	1				
8学級	4	1	1	1	1		
7学級	6	2		1	2	1	
6学級	12	1	4	1	3	2	1
5学級	7	1	1		2	3	
4学級	9		2	1	3	3	
3学級	4			2	2		
合計	46	8	9	6	13	8	2

生徒数の減少に伴い、小さな規模の高校が増えています

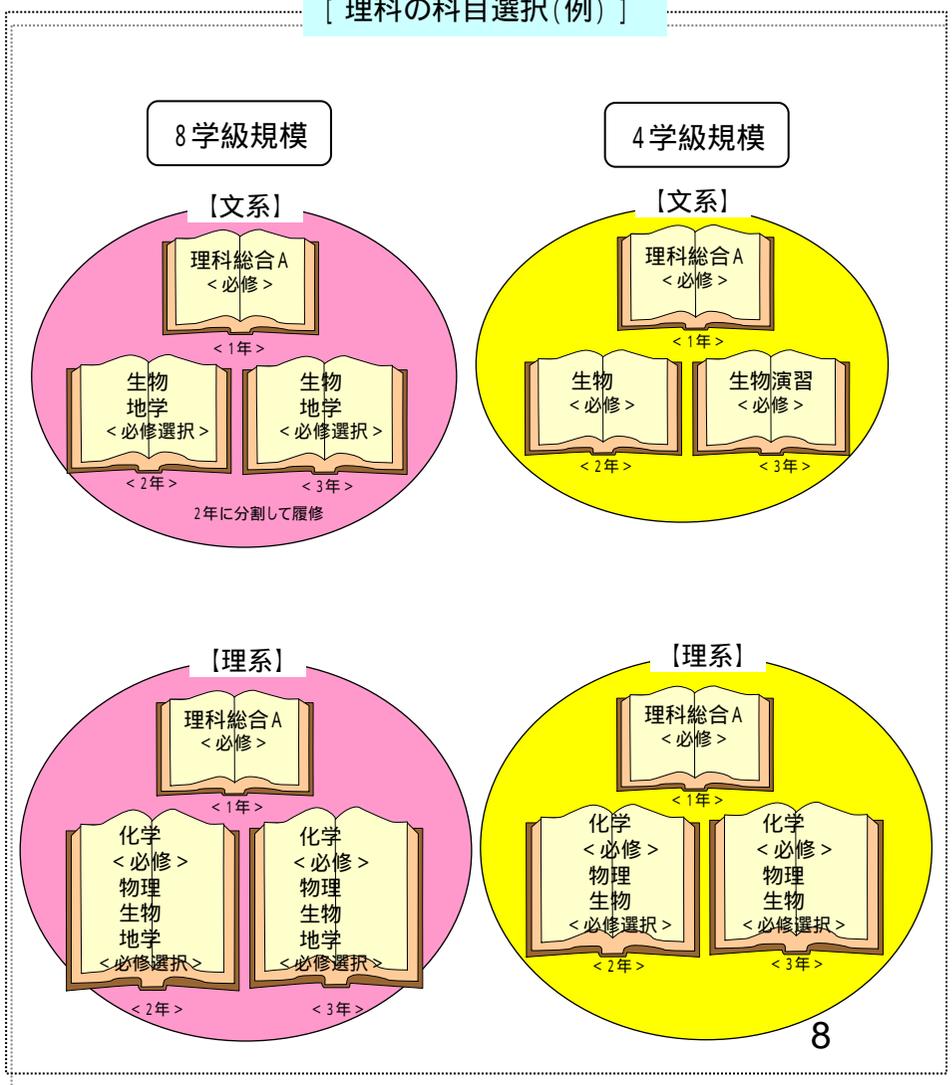
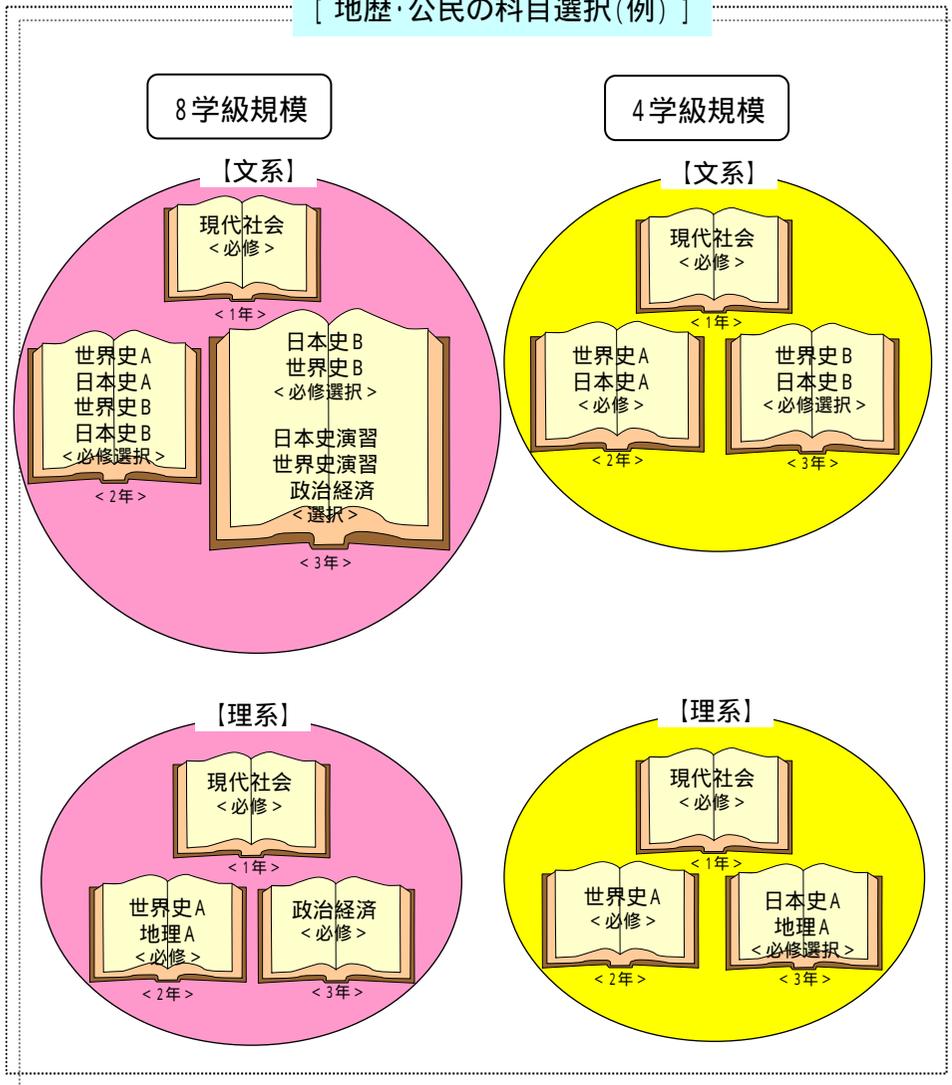
どうしてこうした課題に直面しているの？
 (学校の規模によってどういう違いがあるの?)



高等学校の学校規模から見た開設科目の選択幅の例

[地歴・公民の科目選択(例)]

[理科の科目選択(例)]



生徒側のイメージ

大規模校

メリット

- ・多様な科目や部活動のメニューがあり、選択肢が豊富である。
- ・人間関係の組合せが多く、切磋琢磨の機会に恵まれている。



デメリット

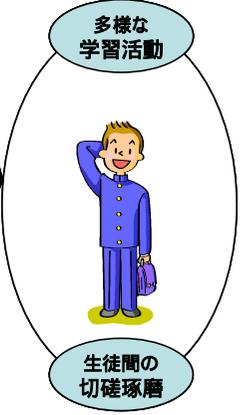
- ・規模が大きすぎると3年間で交流のない生徒や教師があり、学校としての一体感を感じにくい。
- ・施設・設備等の使用において制約が生じることがある。

- 【学習活動】
- 【必修科目等の選択】
- 世界史 A or B
 - 日本史 A or B
 - 地理AorB
 - 現代社会
 - 政治経済
- 【多様な科目の選択】
- 国語表現
 - 古典講読
 - 地学
 - 芸術(音・美・書)
- 【授業・補習等】
- 40人授業
 - 分割授業
 - 分割授業
 - 補習等
 - 補習等
- 【部活動】
- 水泳部
 - バスケットボール部
 - バレーボール部
 - 文芸部
 - 吹奏楽部

小規模校

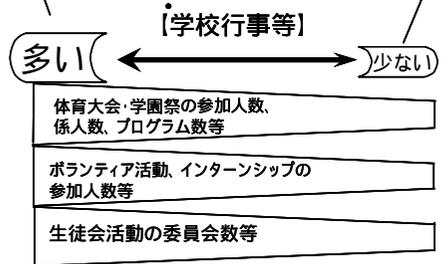
メリット

- ・友だちや教師全員の顔を覚えられ、人間関係を作りやすい。
- ・施設・設備等に余裕があるため、制約が少なく利用できる。



デメリット

- ・人間関係の組合せが少なく、固定化された人間関係に陥りやすい。
- ・科目や部活動のメニューが少なく、学校行事も小規模となり、多様な学びにおいて制約がある。



【県立高等学校における学級数別の部活動数、学校図書蔵書数の平均値】

1学年あたり 学級数	部活動数		学校図書 蔵書数
	運動部	文化部	
11学級	35.0部	18.0部	29,203冊
10学級	28.0部	11.0部	-
9学級	26.0部	12.7部	33,158冊
8学級	28.5部	13.0部	27,796冊
7学級	24.0部	10.6部	22,728冊
6学級	19.9部	10.2部	23,906冊
5学級	18.9部	9.8部	22,575冊
4学級	17.7部	6.0部	19,415冊
3学級	13.3部	5.8部	12,997冊



図書蔵書数は平成18年度末。部活動数については平成20年度



社会の
急激な変化

どうしてこうした課題に直面しているの？



進む少子化・高齢化



情報化の進展



グローバル化の進展



科学技術の高度化

産業・経済の急激な変化



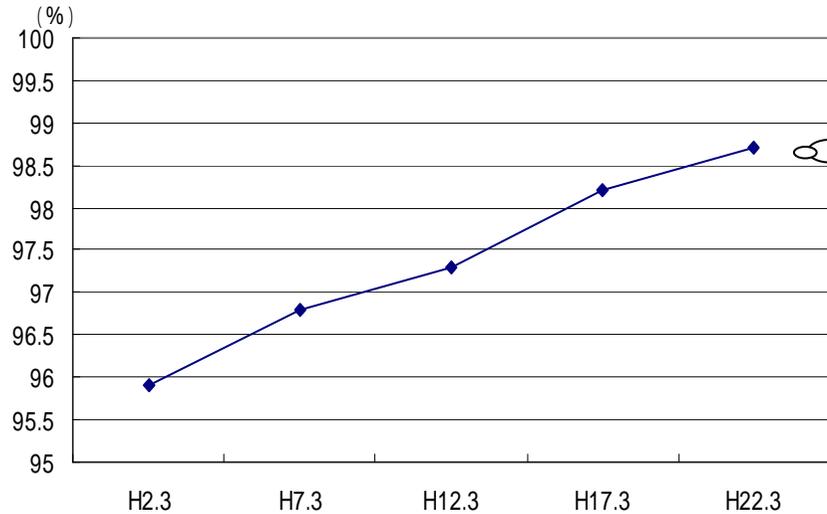
急激な変化に対応できていない

生徒の
多様化

どうしてこうした課題に直面しているの？



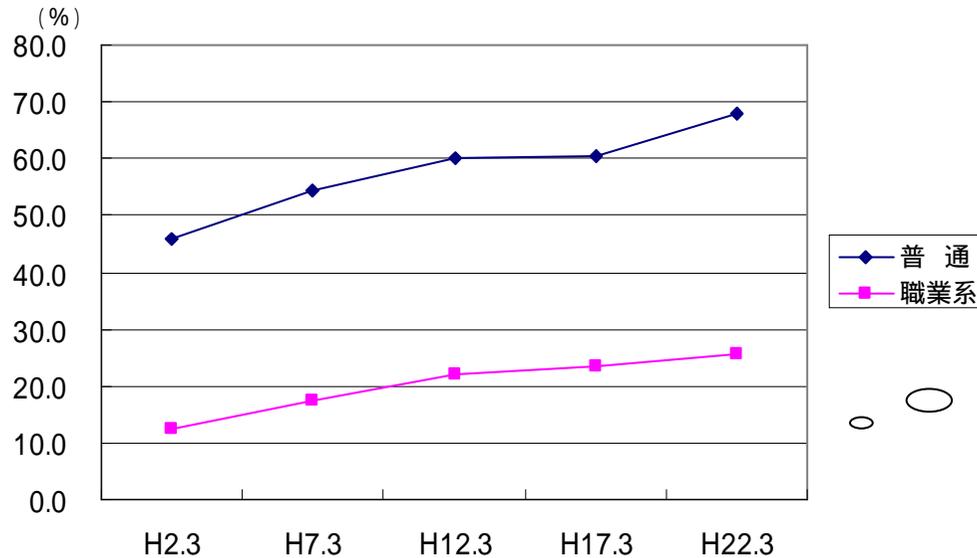
【滋賀県における高等学校進学率】



100%に近づく
高等学校への
進学率

生徒一人ひとりの考
え方や生き方、目指
す進路が多様化して
いる状況に対応でき
ていない

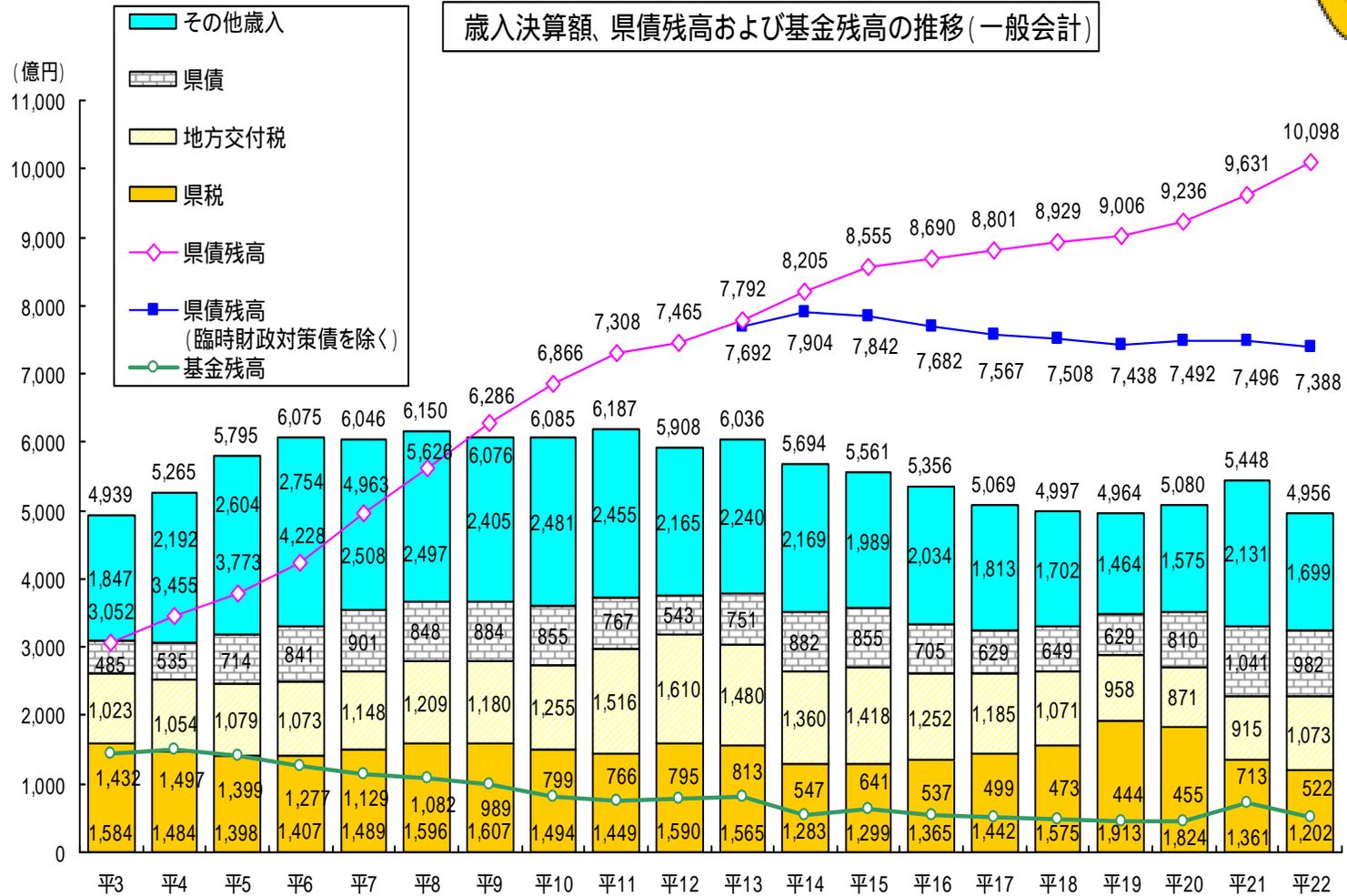
【大学等への進学率】



高まる大学等
への進学率

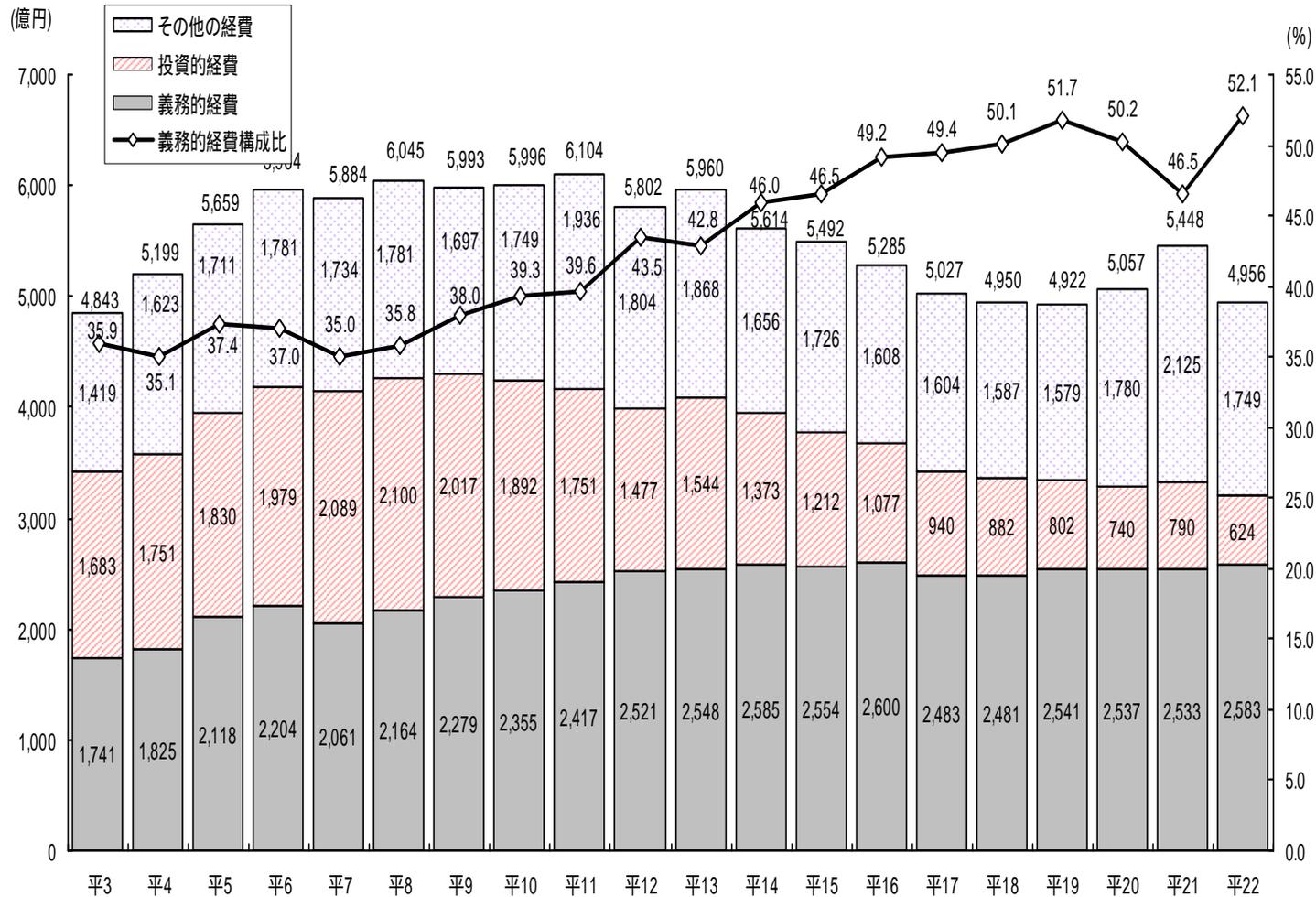
厳しい
財政状況

どうしてこうした課題に直面しているの？



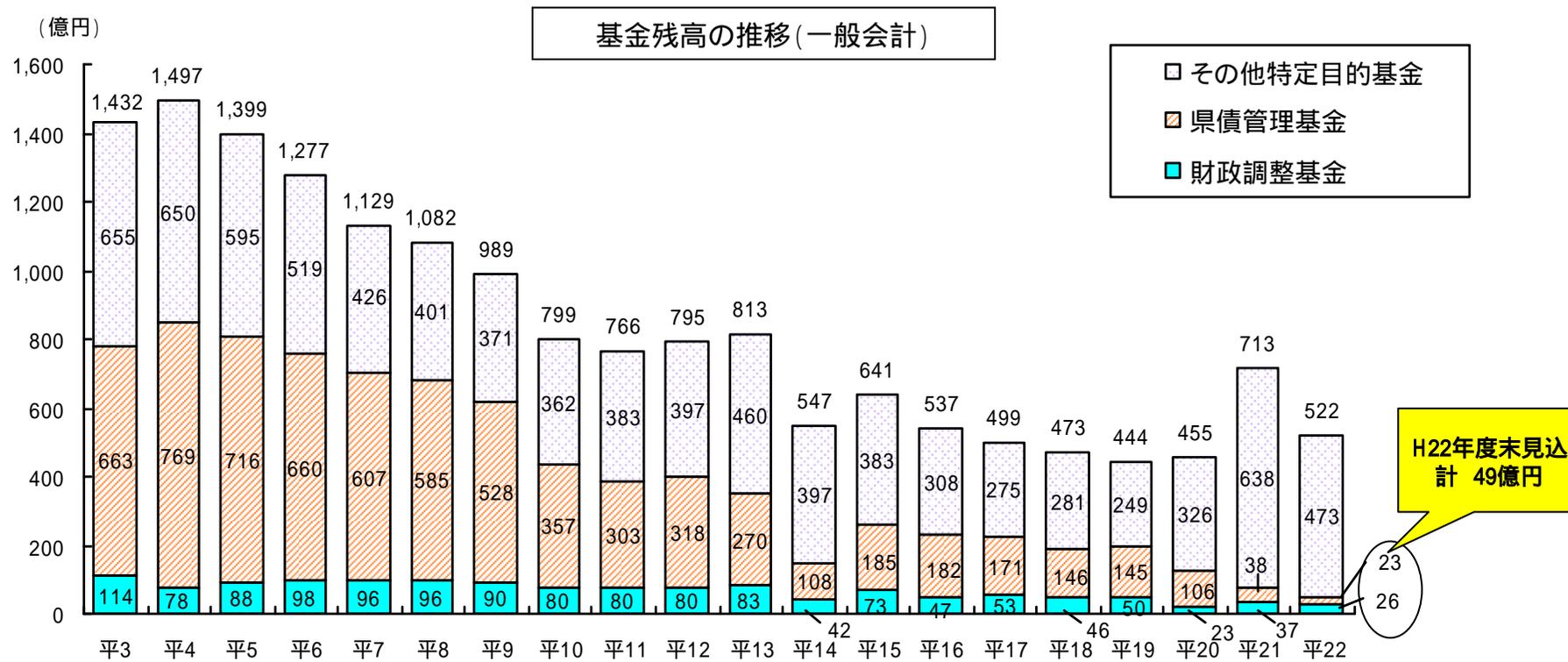
- (注) 1 県債については、借換債を除いています。
 2 平成20年度までは決算額、平成21年度は最終予算額、平成22年度は平成22年2月補正後予算額です。
 3 基金残高は各年度末現在高であり、平成21年度は最終予算額、平成22年度は平成22年2月補正後予算額に基づく各年度末現在高見込額です。
 4 県債残高は各年度末現在高であり、平成21年度および平成22年度は見込額です。

歳出決算額と義務的経費、投資的経費の状況(一般会計)



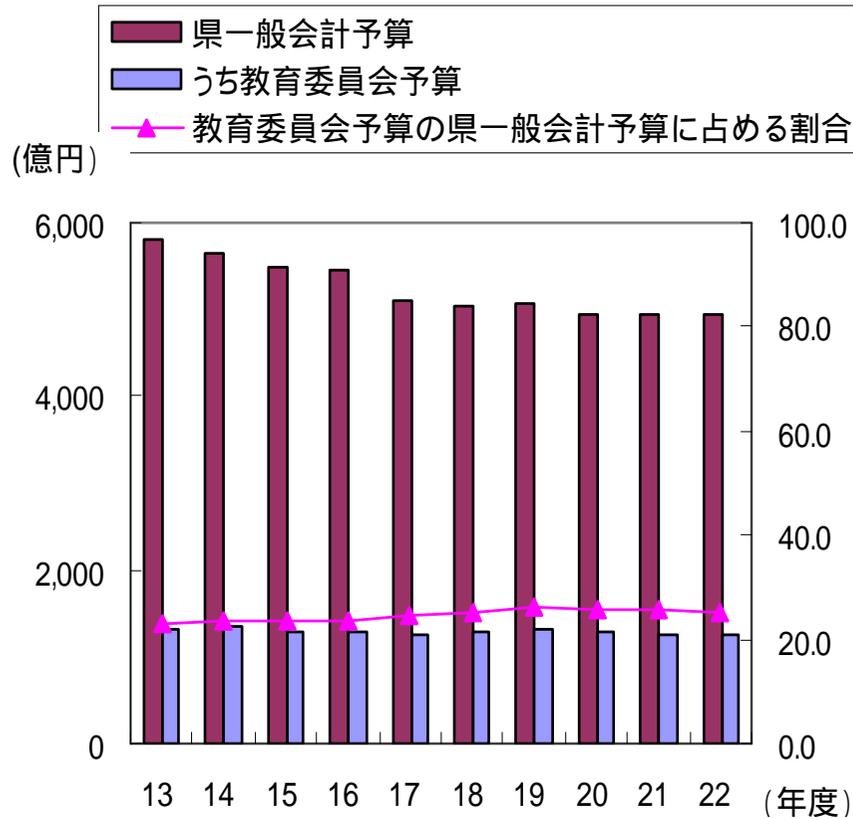
(注) 1 義務的経費のうち扶助費については市町に対するものを除き、公債費については借換債を除いています。

2 平成20年度までは決算額、平成21年度は最終予算額、平成22年度は平成22年2月補正後予算額です。

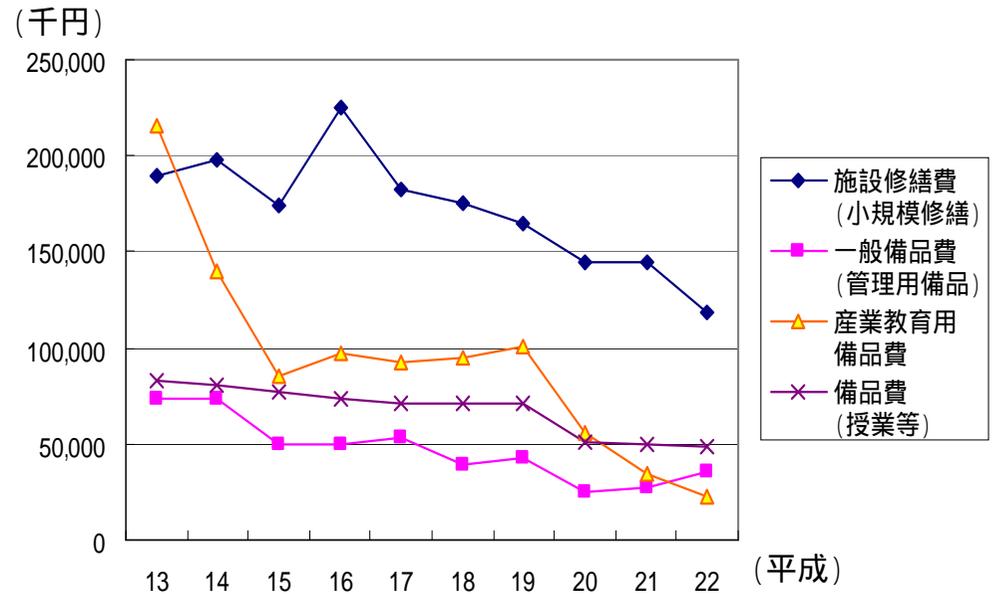


(注) 平成20年度までは、決算に基づく各年度末現在高であり、平成21年度は最終予算額、平成22年度は平成22年2月補正後予算額に基づく各年度末現在高見込額です。

【予算の推移】



【教育関連予算の推移】



教育委員会予算のうち、高等学校費にかかる予算額から抜粋して作図

危機的な県の財政状況の中、教育関連予算についても確保が難しい

このままだと、10年後の県立高等学校はどうなってしまうの？



特定の地域では、さらなる生徒数の減少が見込まれることから、学校規模が一層小さくなる・小さな規模の学校がさらに増加し、学校活力が低下することが懸念される

生徒数の減少や社会の変化がさらに進行する中において、学科の構成と生徒の志望状況との間に乖離が生じる

県財政の大幅な改善は見込まれず、施設・設備面での環境改善がさらに遅れる

どうすれば、県立高等学校を取り巻く状況が改善するの？



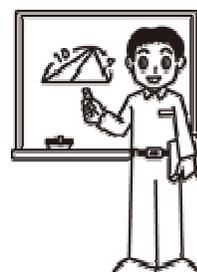
多くの友人・教師に接し、互いに切磋琢磨しながら、豊富な部活動・学校行事の中で学校生活を送ることのできる環境づくりが必要

多様な選択科目を提供するなど、生徒が興味・関心を持ちながら積極的に進路実現に向け学習できる環境を整えることが必要

限られた教育資源を最大限に活用しつつ、より効果的・効率的な学校運営を行うことが必要



社会が求める人材を育成し、生徒の志望状況・学習ニーズとの乖離を解消するため、学科や教育内容の見直しが必要



限られた予算の効果的な集中投資などにより、豊かな教育環境の整備を図ることが必要



魅力と活力ある学校づくりを目指した統合・学科改編など県立高等学校の再編が必要

滋賀県教育委員会では、県立高等学校の再編に向け、
どのような取り組みを進めているの？



県立学校のあり方検討委員会

滋賀県産業教育審議会

平成21年3月「報告」

平成22年3月「中間審議まとめ」

今後の県立学校のあり方

1. 課程のあり方		3. 適正な規模のあり方	
全日制課程	学校の統廃合も含めた学科構成・規模・配置の見直し	学級定員	40人
定時制課程	北部	適正規模	概ね6学級から8学級程度
	南部	交通の便利・地域事情への配慮は必要 平成30年度あたりを目途に適正規模化	小規模校
通信制課程	現状で受入れ可能 今後の状況等を踏まえ検討	大規模校	学級数の削減
2. 学科のあり方		4. 適正な配置のあり方	
全体方針	定員割れや重複する学科の統廃合 学科バランス(普職比率)の検討	学科の特性への配慮	
普通科	一定規模が確保できない場合の学校の統廃合 コース・類型の見直し	県の産業振興方針や地場産業との連携等への配慮	
普通系 専門学科	全体的な規模の見直し	高等養護学校との連携への配慮	
職業系 専門学科	学校・学科の統廃合による集約化 県産業教育審議会での審議	地理的条件などの地域性への配慮	
総合学科	系列(開講科目等)の見直し	県公立高等学校協議会での協議	
		5. 特別支援学校のあり方	
		短期的対応	学級の編成や教室転用などによる一層の工夫 現有の施設を有効に活用する方策の検討
		長期的対応	各学校の教育環境の詳細調査の実施 増改築や他の既存施設活用の必要性の検討

(1)	産業や社会の激しい変化の中で、現行の学科の在り方が中学校卒業予定者の志望状況や高校卒業後の進路状況などに必ずしも合っていない現状への対応、各学科における教育内容の質的充実、施設・設備を含めた教育環境の整備が求められているため、従来の職業学科の在り方ならびに教育内容の見直しを検討することが望まれます。
(2)	現状では細分化されすぎている小学科を整理・統合し、学習内容が理解しやすい名称とするとともに、既存の施設・設備の効率的な活用や集中的な投資を行うことも視野に入れ、各小学科の志望状況を勘案しつつ、学校間での小学科の再編や複数の小学科をまとめて募集することなど、幅広い観点から検討していくことが望まれます。なお、学科によっては、小学科を改善するための早急な対応が望まれます。
(3)	上級学校へ進学する生徒が増加している傾向を受けて、高等教育機関への接続も視野に入れ、将来の専門的職業人の育成につながる教育内容の工夫について検討することが望まれます。
(4)	総合学科の職業系の各系列については、地域におけるニーズや、県下全体の職業学科の規模や配置などを見据えながら、各校の系列の見直しも含め今後の在り方を検討していくことが望まれます。
(5)	定時制課程については、社会情勢の変化等により、様々な学習動機や学習歴を持つ生徒が増える傾向にあります。定時制職業学科の今後の在り方については、職業学科としてのニーズがあるかどうか等の観点も踏まえ、学科の必要性も含めた定時制課程の在り方についての検討をすることが望まれます。

平成22年9月「答申」予定

滋賀県教育委員会の再編に対する基本姿勢を教えて

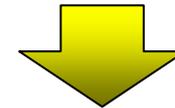
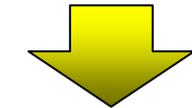


滋賀県の学校教育を取り巻く環境に適切に対応した、**魅力と活力ある学校づくり**に努めます。

そのため、**学校活力の維持向上**ならびに**教育内容の質的向上**を図ることを念頭に、**統合や学科改編を含めた県立高等学校の再編**に取り組みます。

学校活力の維持向上

教育内容の質的充実



魅力と活力ある県立高等学校づくり

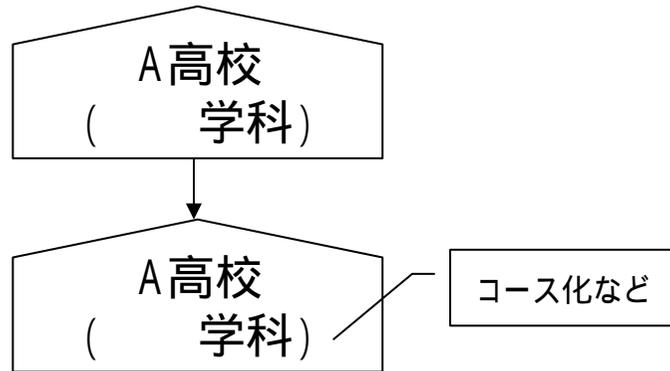
ほとんどの都道府県では、既に高等学校の再編(統合・学科改編等)が進んでいます

再編のイメージを教えて

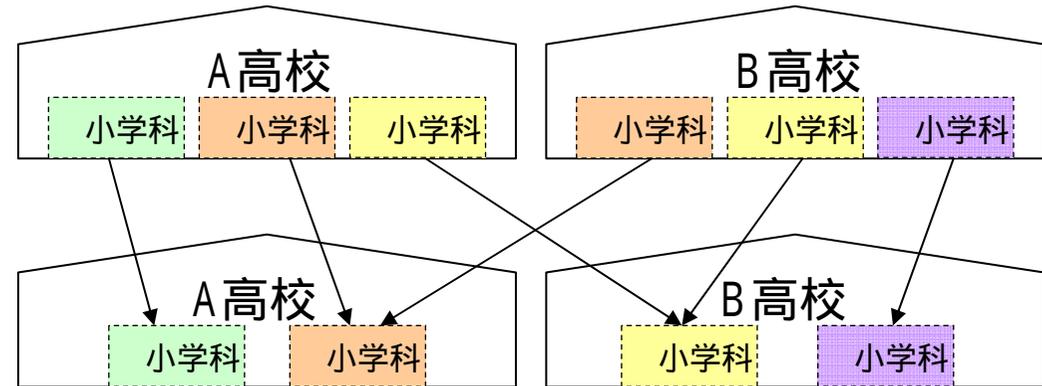


< 例 >

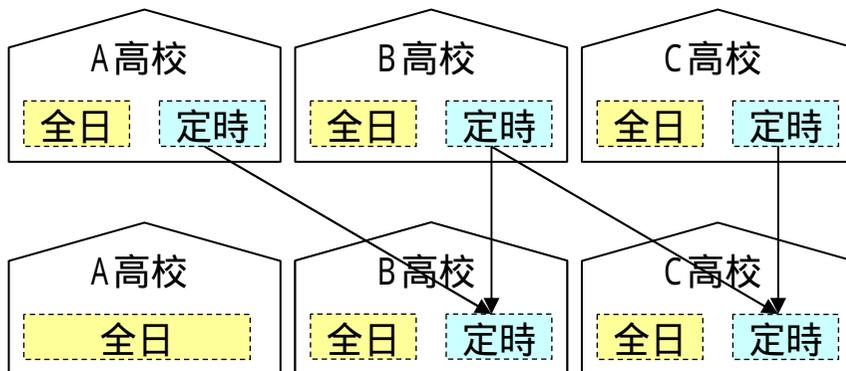
学科改編等



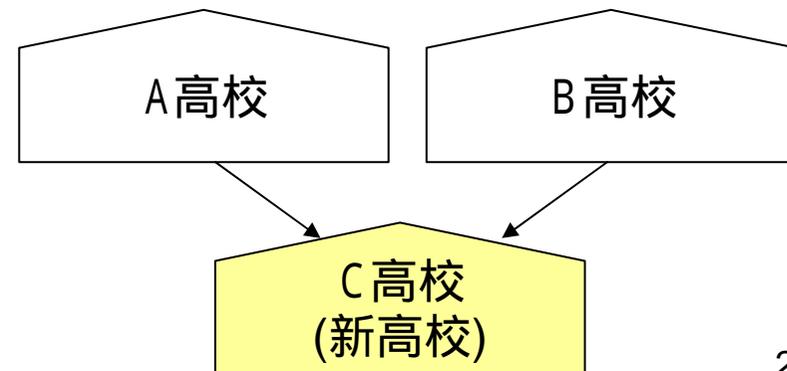
学科集約



課程集約



学校統合



再編の具体的な考え方を教えて



特色ある学校づくり

・生徒の多様な学習ニーズや地域・産業界の要請などに応え、多様な学びの場を提供するため、特色ある学校や学科・コースを設置することにより、教育内容の充実を図ります。

バランスのよい学校配置

・全県的な視野で、学校・学科の配置や、普通科・専門学科および総合学科の構成バランスに配慮しつつ、近接する同質系の学校・学科を再編するなど、バランスのよい学校配置に努めます。

活力ある学校づくり

・学科の特性や地理的条件などを考慮するとともに、生徒数の推移や志望状況等に配慮しながら、1学年あたり概ね6学級から8学級を標準とします。
・学校規模の縮小が進む地域においては、地域性などを考慮しながらも、周辺校との再編により、学校活力の向上を図ります。

職業系専門学科・総合学科の再構成

・施設・設備の効率的な活用や集中的な投資などにより、専門性を維持向上できるよう、職業系専門学科の集約化を図ります。
・各学校の特色を生かしつつ、学校の統合や学校間での小学科の集約、学科の再編を実施します。

最終的には、県産業教育審議会「答申」を踏まえる

定時制課程の見直し

・様々な学習動機や学習歴を持つ生徒が増加傾向にあることを踏まえつつ、現在の定員未充足の状況を改善し、集団の中で活力ある学びが可能となる方向での再編を行います。
・学び直しの役割等が重視されつつある状況を踏まえ、定時制課程における職業学科の必要性を一定見直します。

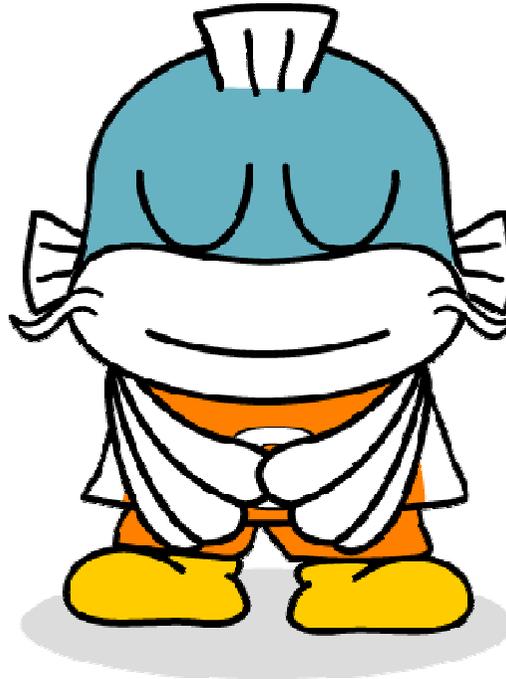
今後のスケジュールを教えてください



【再編計画策定までのスケジュール】

平成22年9月 滋賀県産業教育審議会「答申」

答申以降、再編計画の策定を目指します



ご意見をお寄せください

ご静聴ありがとうございました

滋賀県教育委員会事務局